

第8学年 英語科学習指導案

単元名 : Unit2 “A Trip to the U.K.”

指導者 府中市立府中明郷学園

藤原 紀子 (T1)

田口 薫 (T2)

1	日 時	平成 29 年 6 月 14 日 (水) 5 校時 (13:50~14:40)
2	場 所	英語科教室
3	学 年	第 8 学年 基礎クラス (男子 7 名 女子 10 名 計 17 名)
4	単 元 名	Unit 2 “A Trip to the U.K.” (New Horizon 2)

単元について

○単元観

本単元は、中学校学習指導要領外国語（平成 20 年，以下「指導要領」とする）編の内容イ「話すこと」(エ)「つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。」を踏まえて設定したものである。本単元では、「話すこと」のつなぎ言葉の相づちを中心に、繰り返しや聞き返しを使って、話を続けることをねらいとしている。また、「指導要領」(2)言語活動の取扱いのア(イ)には、「実際に言語を使用して互いの気持ちを伝え合うなどの活動においては、具体的な場面や状況に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようにすること。」とあり、実際の使用場面を意識させて、未来形 (be going to) を使って予定や計画について述べたり、尋ねたりさせ、言語材料の定着を図ることをねらいとしている。

本単元で活用する読み物は、中学生の光太がイギリスへ旅行し、生徒が親しみやすい「ハリポッター」の撮影地など、生徒の興味を引く内容でイギリスを紹介している。異文化に触れ、外国の文化と日本の文化の共通点や相違点を知るとともに、言語や文化に興味・関心を広げることのできる題材である。

言語材料としては、be going to, SV00, SV0C が扱われている。これらを活用することにより、予定や計画を伝えたり、実用的な入国審査の対話をするなど、表現の幅を広げ豊かな対話を展開することを学ぶことができる。

本単元を通して異文化に触れ、本物の会話 (authentic material) を使って、会話を継続するストラテジー (相づち、繰り返し、聞き返し) を習得し、色々な人と色々な場面で発展的な会話を展開することができる力を養う。

生徒観

本学年の生徒は、4年生から毎朝 10 分間の英語活動 (E-time) を通して、英語のゲームや活動に親しんでいる。また、5年生から外国語指導助手 (ALT)・中学校英語教諭・小学校教諭と外国語活動を行っているので、英語を聞いたり話したりすることに慣れている。しかしながら、会話を継続することが課題である。会話を継続するためには、相づち、聞き返し、繰り返しのストラテジーが必要になってくる。

本単元を扱う上で、生徒の実態を把握するために以下のレディネステストを行った。

① の質問に英語で答えなさい。(平成 28 年度「基礎・基本」定着状況調査より)

Do you like music?

(17 人)

2 文で正しく答えている	1 文(Yes, I do. / No, I don't.)のみで答えている	2 文で答えているが間違いがある	正しく答えていない
14	1	1	1

② アンケート

	質問	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	英語の授業では、積極的に会話を継続しようとしている。	3	9	4	1
2	英語で積極的に会話を継続する方法を知っている。 その具体的な方法は何ですか。	1	8	6	2
3	あなたが使っている英語のつなぎ言葉にはどのようなものがありますか。	I see. (15) OK.(8) Uh-huh.(6) Really? (5) Good. (4) Excellent. (4) Great. (3)			

上記のアンケートから、本時を中心とした既有知識や背景知識の獲得状況を、次項のような層レベルに分類した。

第3レベル	・英語での簡単な質問に対して、2文以上で答えることができる。 ・正しい相づちの知識があり、授業でも使っている。	10人
第2レベル	・会話を継続しようとしているが、その方法を知らない。	6人
第1レベル	・英語での簡単な質問に対して答えることができない。 ・英語で積極的に会話を継続しようとしていない。	1人

多くの生徒が、英語での簡単な質問に対して、2文以上で答えていることから英語で会話を行うことに対して積極的な姿勢で取り組んでいる。また、アンケートからも相づちを打ったり、相手に質問したりして、会話を継続させようとしている生徒と、方法は知らないが会話を継続させる意欲はある生徒が大半を占めている。しかし15人の生徒が「授業で使っている相づちはI see.である」と答えていることから、使用している相づちにも偏りがあることがわかる。

また、英語での簡単な質問に対して、1人の生徒が“I don't know.”と答えていた。

《支援の必要な生徒》(第1レベルの生徒について)

- ・英語の簡単な質問に答えることができない。
- ・英語の会話で積極的に継続しようとしていない。

指導観

“Communicative competence” (英語のコミュニケーション能力) は, “grammatical competence” (文法能力), “discourse competence” (談話能力), “sociolinguistic competence” (社会言語能力), “strategic competence” (方略能力) の4つの能力から構成されていると言われている (Canale and Swain, 1983)。また, 話し言葉 (discourse competence) は, 質問 (initiation) - 応答 (response) - 付け加え (follow-up) の3つの要素で会話が成り立っていると言われている (Michael, 1991)。教師が質問して, 生徒が答え, 教師が付け加えることが多く, 生徒は follow-up の表現をあまり使う機会がない。しかし, コミュニケーションを図るためには, follow-up の色々な表現を使う必要がある。本時では, 主に “discourse competence” の相づちに焦点を置き, 円滑にコミュニケーションを図れるように指導する。

指導にあたっては, 本単元の終わりにパフォーマンステストを設定し, 単元を通して課題を解決できるように仕組んでいく。パフォーマンステストでは, 職場体験の話題について, ALTと90秒間会話を続けることを目標にしている。評価指標 (ルーブリック) を事前に伝えることで, 目標を明確に持たせ, それに向けてスモールステップで練習させる。

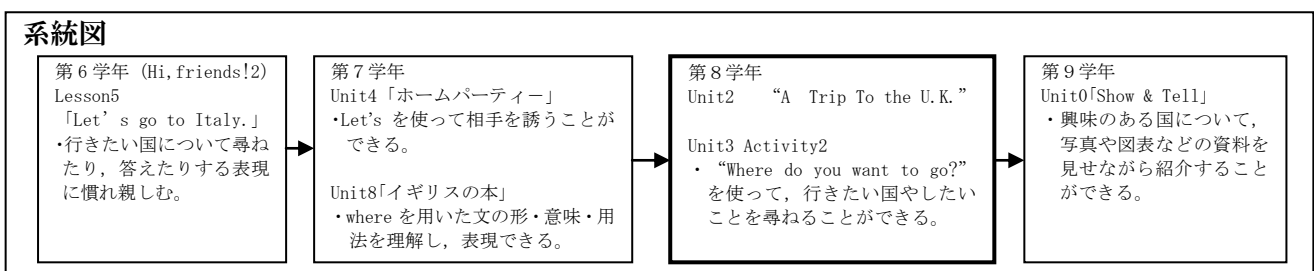
会話を継続させるためのストラテジーを習得させるため, 日本語と英語の会話をビデオに撮り, 会話を全て書き下ろし, 比較して分析させる。まず, 日本語の会話を分析し, 繰り返しや聞き返しを使って会話が継続していることに気付かせる。本時では, 日本語と英語の会話の相づちに着目し, よく使われる相づちを比較し, 違いに気付かせる。英語でよく使われる相づちには, “That sounds good.” “Right.” など評価する表現があり, 生徒の会話でよく使われる相づちには, 「な」「まじで?」など同調する表現が見られる。日本人は, 第一言語の習得の影響により, “I see.” “Really?” を使ってしまいが, コミュニケーションに誤解が生まれる。異文化について理解し, 英語の相づちを使って自然に会話を続けられるように指導する。

このような指導をすることで, 会話を継続するストラテジー (繰り返し, 聞き返し, 相づち) を習得し, 異文化を受け入れる態度を養い, 未来形 (be going to) を使って会話を続ける力を育成する。

《支援の必要な生徒への手立て》(第1レベルの生徒への手立て)

- ・英語表現の言い方が難しければ, 日本語で質問してもよいことを伝える。

○学習内容の関連 (単元の系統性)



単元の目標・評価規準

- 間違うことを恐れず、自分の考えを話している。
- 入国審査で質問されたことに答えることができる。
- 自分の職場体験について紹介する文章を書くことができる。
- イギリスの有名な場所の紹介文を読み取ることができる。
- be going to, SVOO, SVOC の形・意味・用法を理解している。
- コミュニケーションを円滑にする言語の働きに関する知識を身に付けている。
- 話を続けるために必要な相づちを知っている。
- ★**コンピテンシー**: 自然な会話になるように相づちを使って、コミュニケーションを図ることができる。
(コミュニケーション能力)

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違うことを恐れず、自分の考えを話している。	①入国審査で質問されたことに答えることができる。 ②自分の職場体験について紹介する文章を書くことができる。 ③相づちを使いながら、90秒間会話を続けることができる。	①イギリスの有名な場所の紹介文を読み取ることができる。	①be going to, SVOO, SVOC の形・意味・用法を理解している。 ②コミュニケーションを円滑にする言語の働きに関する知識を身に付けている。 ③話を続けるために必要な相づちがわかる。

指導と評価の計画

(全 13 時間)

時	到達目標 (活動目標)	評価の観点				評価規準 (評価の方法)
		関・意・態	表現	理解	知識理解	
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">課題の設定</div> 本単元のパフォーマンス課題を知る。 ・ある生徒から、「ALTの先生と一緒に給食を食べる時、会話がなかなか続かなくて困っています。どうしたらいいですか。」と相談を受けた。あなたはどうか答えますか？ ・単元を通して会話を続けるストラテジー (方法) を身に付け、夏休みの職場体験を題材に、ALTの先生と90秒会話が続くようになろう。					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">情報の収集</div> be going toを使って職場体験について伝えることができる。				◎	エ① (ワークシート)
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">整理・分析</div> 教科書本文の英文の内容について読み取ることができる。			◎		ウ① (ワークシート)
3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">情報の収集</div> SVOO の形・意味・用法を理解し、それを用いて入国審査の会話ができる。				◎	エ① (観察)

4	整理・分析 教科書本文の英文の内容について対話することができる。		◎			イ① (観察)
5	情報の収集 SVOCの形・意味・用法を理解し、相手に伝えることができる。				◎	エ① (観察)
	整理・分析 教科書を読んで、内容を理解することができる。			◎		ウ① (ワークシート)
6	整理・分析 本文の内容を読んで、正しく理解することができる。			◎		ウ① (ワークシート)
7	まとめ・創造・表現 自分の職場体験について総合的な学習の時間で調べて分かったことを英語で表現する。		◎			イ② (ワークシート)
8	整理・分析 会話を分析して、「聞き直す」「繰り返す」などの言語の働きに気付くことができる。				◎	エ② (ワークシート)
9 本時	整理・分析 日本語の会話と英語の会話を分析して、相づちの表現の違いを見付けることができる。				◎	エ③ (ワークシート)
10	実行・振り返り パフォーマンステスト	○	◎			ア① イ③ (スピーキングテスト)

本時の学習

(1) 本時の目標

○日本語と英語の会話を分析して、話を続けるために必要な相づちが分かる。

★**コンピテンシー**：自然な会話になるように相づちを使って、コミュニケーションを図ることができる。
(コミュニケーション能力)

(2) 本時の学習展開

学習活動 ・予想される生徒の思考	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て		評価規準 (評価方法) ○教科 ★府中明郷学園におけるコンピテンシー
	T1	T2	
1 ウォームアップを行う。(3分)			
3分	<ul style="list-style-type: none"> ○ Greeting ○ 前時までの復習 ○ Warm-up ・パフォーマンステストの会話のテーマ(What are you going to do during the summer?)について 	<ul style="list-style-type: none"> ◇明るい雰囲気作りに努める。 ◇会話に必要なコツ「繰り返し」「聞き返し」などを思い出させる。 ◇会話が途切れてしまったら、座らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇明るい雰囲気作りに努める。 ◇生徒とペアになり会話をする。

	<p>てペアで会話をする。(90秒)</p> <p>○どうしたら会話が自然になるのか考える。</p> <p>・くり返す。 ・相づちを使う。 ・話題を変える。 ・質問する。</p>	◇相づちが必要なことに気付かせる。			
2 本時の課題と学習の流れを知る。(3分)					
3分	<p>○ 本時の課題を確認</p> <p>【課題】英語と日本語の相づちの違いを見付けることができる。</p> <p>○ 学習の流れ</p>	◇授業の流れを示す。			
3 個人思考(5分) グループ思考(7分)					
38分	<p>○予想する。(3分)</p> <p>・会話を続けるためには、どのような相づちの英語の表現があるか発表する。</p> <p>I see. Really? OK. Good. Great.</p> <p>・今まで知っている相づちの英語の表現の中で、どれをよく使うか予想させる。</p> <p>I see. Really?</p> <p>○日本語の会話の分析(3分)</p> <p>・生徒同士の日本語の会話を見て、どんな相づちを使っているか、確認する。</p> <p>な。うん。ほんまそれ。確かにまじで。 そうなん。</p> <p>○ALTに“I see.” “Really”だけの相づちではどのような印象を受けるかインタビューしたビデオを見る。(3分)</p> <p>・I see.ばかりだと、本当に分かっているのか不安に感じるんだ。 ・Really? ばかりだと、話してが伝えていることを疑っているように思われる</p> <p>○英語の会話の分析(3分)</p> <p>・ネイティブスピーカー同士の会話のビデオを見て、会話の流れや、どんな相づちを使っているか、確認する。</p>	<p>◇今まで知っている相づちの表現を発表させる。</p> <p>◇事前にしたアンケートの結果を伝える。</p> <p>◇日本語の会話のVTRを見せて、相づちの表現を意識させる。</p> <p>◇“I see.” “Really?”だけの相づちはコミュニケーションがうまくいかないことに気付かせる。</p> <p>◇資料3を使って英語の相づちをマークさせる。</p>	<p>◇今まで学習した相づちを黒板に貼る。</p> <p>◆フォローアップの表現をマークさせる。</p> <p>◇マジック・模造紙を配る。</p>		

<p>• Yeah. Uh huh. That sounds cool. Okay. Yeah. Yep. Right. That's really cool.</p> <p>○個人思考（5分） • 日本語と英語の相づちにはどんな特徴があり、なぜ違うのか。また、英語で相づちを打つときにはどうしたらいいか個人思考する。</p> <p>○グループ思考（7分） • 4人グループになり、個人で考えたことをグループで共有する。<u>協働的な学習</u></p> <p>○グループ発表（5分）</p>	<p>◇ワークシート2の付箋に記入させる。</p> <p>◇司会・記録・発表者を決めさせる。 ◇学習班内で個人の考えを発表させる。 ◇班の意見をまとめさせる。</p> <p>◇大きな声で発表させる。</p>	<p>◇生徒と対話する。</p> <p>◆英語表現の言い方が難しければ、日本語で質問してもよいことを伝える。</p>	<p>★自然な会話になるように相づちを使って、コミュニケーションを図ることができる。</p>
<p>【予想される生徒の発表】</p> <p>• 英語では，“Great.” “That sounds good.” “Right.” “Excellent.” などの評価する表現をよく使い、日本語では，“I see.” “Really?” などの同調する表現が多い。</p> <p>• 英語で相づちを使った後に、一言付け加える必要がある。</p> <p>• 英語で相づちを打つときには、日本語を英語にした相づち “I see.” “Really?” よりも、That's right. Cool. など同じ相づちを繰り返さないようにする。</p>			
<p>○異文化間コミュニケーションについて知る。（5分） （ワークシート4）</p> <p>• 日本人は高文脈文化を持っており、周りの気持ちを大切にす文化なんだ。 • アメリカ人は低文脈文化を持っており、個人の意見を大切にす文化なんだ。</p> <p>○パフォーマンス課題の会話文の中に、英語の相づち・聞き返し・繰り返しを使い、会話を継続させる。（4分）</p>	<p>◇高文脈文化・低文脈文化について説明し、英語を使ってコミュニケーションを図る場合には、英語の文化を受け入れ使うことが必要であることを伝える。</p> <p>◇学習した相づちを、実際の会話文の中で使わせる。 ◆生徒の相づちを確認し、生徒が自信を持って言えるようにする。</p>		
<p>4 本時の学習をまとめる（3分）</p>			

3分	<p>○本時のまとめ</p> <p>【まとめの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語の相づちでは、“Yeah”や“Sounds great”などの相づちがよく使われるので、“I see.”や“ Oh, really?”だけでなく、英語の相づちを使う必要がある。 会話を継続させるためには、相づちの後に質問したり聞き返したりすることで会話を継続することができるのは、英語も日本語も同じだ。 	◇まとめを記入させる。	○話を続けるために必要な相づちを知っている。 (ワークシート)
5 本時の学習を振り返る（3分）			
3分	<p>○本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> A L Tの先生と会話するときには、英語の相づちを使ってみたいと思う。 英語では、同じ相づちを繰り返し使わないようにしようと思う。 <p>○Let's try!</p> <ul style="list-style-type: none"> 次回はパフォーマンステストを行うことを伝える。 	<p>◇本時の課題に関わる振り返りをする。</p> <p>◇ “I’ m going to go to England this summer.”と聞いて答えることを記入する。</p>	

(3) 板書計画

課題:英語と日本語の相づちの違いを見付けることができる。		あいづち	あいづち
<p>Today's Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 本時の課題 2 個人思考 3 グループ思考 4 コミュニケーション 5 まとめ 6 振り返り 	Topic: What are you going to do during the summer?	え まじで そうなん	OK. I see. Uh huh. Great! Oh, really?
	応答: Well. I’ m going to work at Tenmaya.		
	聞き返し: Oh, you are going to work at Tenmaya.		
	繰り返し: Tenmaya ?		
1 班	2 班	3 班	4 班

(4) 単元末パフォーマンステストと評価

パフォーマンス課題：夏休みの職場体験を題材に，ALTの先生と90秒会話が続くようになる。

評価規準：イ 外国語表現の能力
職場体験の話題で，ALTと90秒間会話を続けることができる。

	A (十分満足)	B (おおむね満足)	C (努力を要する)
評価基準	<p>・正確な英語表現で，聞き手からの質問に適切かつ正確に答えるとともに，さらに説明を加えたり，ストラテジーを使ったりして，会話を続けることができる。</p>	<p>・相手が理解できる英語表現で，聞き手からの質問に，うなずきながら聞いたり，適切に答えたりすることができる。</p>	<p>Bに達しない。</p>
予想される生徒の姿	<p>T: What are you going to do this summer? S: I'm going to work at Jean's Kikaku Kobo. <u>How about you?</u> T: Oh, me? Let me see. I'm going to go to Hokkaido to visit my friends. S: <u>That sounds great. When are you going to go to Hokkaido?</u> T: Oh, it'll be on Aug 7th. S: <u>August 7th. It'll be soon.</u> T: Yeah. S: How many days are you going? T: Oh, ten days. S: <u>Wow. Ten days. That's great. I want to go to Hokkaido, too. I want to eat Tarabagani.</u> T: What is that? S: Oh, it's a big cram. <u>It's very tasty.</u> T: I will try it in Hokkaido. S: <u>Yeah. That would be great.</u> (Time up.) T: Have a good day. S: Thank you. You, too.</p>	<p>T: What are you going to do this summer? S: I'm going to work at Jean's Kikaku Kobo. <u>How about you?</u> T: Oh, me? Let me see. I'm going to go to Hokkaido to visit my friends. S: <u>Ah huh. That sounds great.</u> T: Thank you. Your job sounds great, too. What are you going to do there? S: I'm going to press jeans. T: Oh, that's great. S: <u>Thank you.</u> T: So, are you going with any friends? Who are you going with? S: <u>Oh, by myself.</u> T: How many days are you working? S: <u>How many days?</u> Oh, five days. T: Wow. Five days. Sounds great. (Time up.) Have a good day. S: Thank you. You, too.</p>	<p>T: What are you going to do this summer? S: I'm going to work at Jean's Kikaku Kobo. T: What are you going to do there? S: I'm going to press jeans. T: Oh, that's great. T: So, are you going with any friends? Who are you going with? S: By myself. T: How many days are you working? S: Five days. T: Wow. Five days. Sounds great. (Time up.) Have a good day.</p>

参考文献

Michael McCarthy (1991) "Discourse Analysis for Language Teachers"

Canale, M. and M. Swain (1980) "Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing"

Edward T. Hall (1977) "Beyond Culture"

英語の相づち：会話のテーマ（夏休み何するの？） 90秒

initiation (会話の始め)	response (応答)	follow-up (フォロー)
生徒 S1: 夏休みなんか予定ある?		
	S2: え、部活ぐらい	
		S1: やっぱりそうよな。
	S2: な	
	S1: みんなよな	
		S2: な
S2: なー、バーベキューせん?		
	S1: あーいいな バーベキュー	
S1: いつする?		
	S2: いつする?	
	S1: 部活あるな	
		S2: な
S2: じゃあ、部活が二人ともなくて、暇なときに。		
	S1: うん、オッケー	
		S1: うん
	S2: じゃーラインするな。	
		S1: な
S2: え、祭りは? 祭り		
	S1: あー夏定番 府中の?	
		S2: うん
S2: 行く?		
	S1: 行こう ダンス出るしな	
		S2: な
	S2: じゃ、それ終わったら	
		S1: うん 遊ぼう いっぱい
	S2: 次の日も遊ぶ? 次の日	
		S1: うん
	S2: 花火の日	
		S1: うん
	S2: 遊ぼう	
		S1: うん めっちゃそれ
S2: え、話しかえるよ。		
	S1: うん。	
S2: な、修学旅行ってさあいつ?		
	S1: 12月?	
		S2: 12月
S2: えっどこいくんけ?		
	S1: 東京	
	S2: 東京よな。	
		S1: うん

Today's Goal

会話を分析して、日本語と英語の相づちの違いを見つけることができる。

Grade() No.() Name _____

1 日本語の相づちの特徴を付箋に書きましょう。(付箋一枚に特徴一つだけ書く。)

うん	な 確かに
うん うん	やっぱりそうよな
まじで?	うん めっちゃそれ
日本語の相づちの特徴	

2 英語の相づちの特徴を付箋に書きましょう。

Yeah(Yep).	Oh really?
That's really cool.	Okey.
That sounds great.	Right.
That's sounds really really good.	Uh huh.
英語の相づちの特徴	

3 日本語と英語の相づちは、なぜ違うのでしょうか？

4 英語で相づちを打つには、どんなことに気をつければいいですか。

5. まとめ

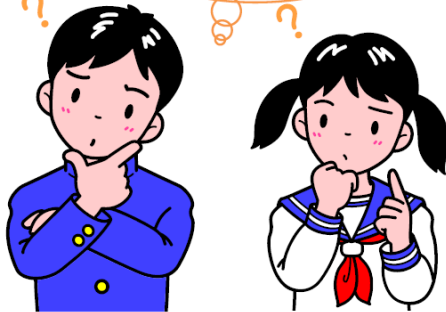
今日の学習でわかったことをまとめよう。

英語の相づち：会話のテーマ（夏休み何するの？） 90秒

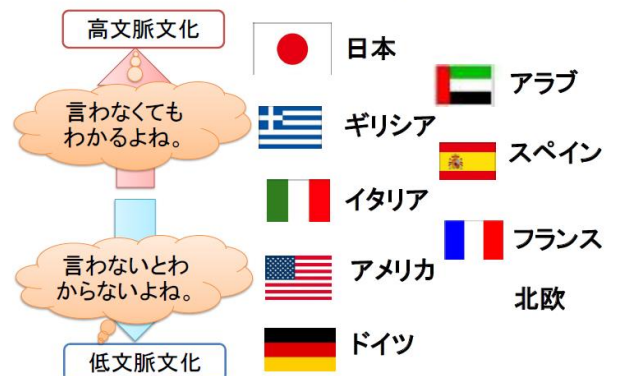
initiation (会話の始め)	response (応答)	follow-up (付け加え)
Alan: So Megan, What are you gonna do for your summer vacation? メーガン、夏休み何するの？		
	Megan: Well, ummm good question. I was actually thinking about it ummm last week and I thought, maybe, I want to go to Hokkaido. いい質問ね。ちょうど先週考えていたところなの。やっぱり、北海道へ行きたいわ。	
		A: Oh really?
	M: Yeah.	
		A: That sounds cool!
	M: Yeah because, one, I have a friend there. そこには友達が一人居るの。	
		A: Okay.
	M: She's also Jamaican. 彼女もジャマイカ出身なの	
		A: Uh huh.
	M: And, I hear it's really beautiful there because they have a lot of flowers... たくさんお花があるから、とってもきれいなところだと聞いているの	
		A: Yeah.
	M: ...in the summer time. And one more reason, it's not as hot... もう一つの理由は、夏はね、あんまり暑くないから	
	A: Or humid, right? 蒸し暑さだよ？	
		M: Haha right. そうなのよ
		A: Right! Yeah!
A: I definitely would go to Hokkaido in the summer because it's not as humid. And I don't like humidity. 僕も夏に北海道へいきたいよ。蒸し暑くないからね。ムシムシするのは嫌だよ。		
	M: Oh, neither me. 私も嫌よ。	

		A: Yeah.
M: But, how about you? あなたはどうするの?		
	Uhhh let's see... well, this summer I will go back to America. そうだな。夏には、アメリカに帰るよ。	
		Hmmm!
A: I will be moving to Washington D.C. ...for grad school. ワシントン DC へ引っ越して、大学院へ行くんだ。		
	M: Oh!	
		A: Yeah.
	M: so uhhh...yeah, I'll move back and I'll start going to school. アメリカに戻って、学校へまた通うんだ。	
		M: That sounds great!
	A: Yeah!	
		M: That sounds really really good.
	A: Yeah, I'm kind of excited... なんだかわくわくしているよ。	
		M: Yep!
	A: Of course! You should be! Haha. もちろんだよ。	
		A: Yeah.
A: but before I go to Washington D.C.... でもね、帰国する前に、		
	M: Yes.	
A: ...I want to go to Kochi 僕は高知へ行きたいんだ。		
	M: Ohhh.	
		A: Yeah.
	A: Kochi is like an island near uhh I think near Kansai island. 高知は島みたいなところで	
		M: Ohhh!
	A: And uhh...I want to go surfing, cause I like to surf. 僕はサーフィンをしたいんだ。サーフィンが好きだからね。	
M: Oh! I didn't know you surfed? え、サーフィンするなんて知らなかったよ。		
	A: Yeah, Yeah.	
		M: That's really cool!

文化の違いって何？



High context culture: 高文脈文化とは



High context cultureとは

Low context cultureとは

- 1 集団重視
- 2 あいまいな表現
状況や文脈から読み取る
(非言語コミュニケーション)
言葉にしなくても相手に理解してもらえる。

- 1 個人重視
- 2 言葉ではっきり伝える
(言語コミュニケーション)
言葉にしていない内容は伝わらない！！

英語の相づちを使っていこう！

- うん → Yeah. Ah huh. × Yes. × I see.
- うん うん → Yeah. Yeah. × Yes.Yes.
- そうなん → Right. OK. × Really?
- そうよね → Right. That sounds great.
- な → Right. OK. That's right.
- まじで → Oh, really? + That's great.
- なるほど → I see. (理解したときに使う)